

個別事業(取組)評価				
事業No.	9	施策の柱への位置付け	柱② 教員指導力改革	
事業名称	目指せ！教育先進県研究事業		担当課	教育政策課
			当初予算額(千円)	10,270
			補正後予算額(千円)	8,370
			決算額(千円)	8,094

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	【現状】 ◆ 学校現場におけるPDCAサイクルの実践や組織的・継続的な取組が教育成果に結びついていない。 ※ 全国学力・学習実施状況調査結果 ◆ 全国の中でも厳しい状況にある生徒指導上の諸問題がある一方で、対応する臨床心理士の資格を有する教職員の数が少ない。 ※ 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査 ※ 県内臨床心理士登録数71名中教員6名 【要因】 ◆ 教育行政が進取の課題に取り組む際の中核となる専門的な知識・技能・資格を持つ人材が不足している。	ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 最新のデータで、中学校は全国平均正答率に近づいているものの、まだ差は大きく中学校に特化した学力支援策が完全に活かされていない。 ※平成22年度 全国学力・学習状況調査結果 ◆ 不登校児童生徒数について、改善の兆しはあるが依然として厳しい状況にある。 ※平成21年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査
		イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 平成22年度全国学力・学習状況調査結果を受けて、事務局が分析した資料で、本県の学習指導課題の分析がなされ、今後の取組の方向性が示されている。 ◆ 平成20、21年度児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査から、全国的にもスクールカウンセラーの配置や教育相談体制の充実が必要であることが伺われる。	
②	目標(Outcome)	① 高知県の教育行政における政策の企画・立案力の向上 【目標】 派遣終了者を事務局職員とし、学んだノウハウを県の教育行政における施策の企画者・立案者として活かす。 ② 教員の臨床心理士の資格取得を促進 【目標】 スクールカウンセラーの配置の促進につなげるために、県内の臨床心理士の数を平成23年度末までに10人以上にする。 【検証(比較)方法】 ◆ 点検評価を通じて、前年度と比較して向上した点を確認する。	ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) 平成21年度から3年間の実施目標として設定し、本年度は2年目。派遣目標数値も平成23年度に達成予定。 エ 目標は達成されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ① 高知県の教育行政における政策の企画・立案力の向上 本年度は教育政策課及び小中学校課指導主事として、それぞれ昨年度の派遣者が教育行政の企画立案や、小中学校の学力向上問題に取り組ませた。 ② 教員の臨床心理士の資格取得を促進 現在県内で臨床心理士の資格を持っている教員が6名。受検資格所有者2名は、本年度資格取得に至らなかった。
		オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>) ◆ 政策研究大学院大学への派遣 研究課題を「学校統廃合に関する政策マネジメントの自治体間比較研究」とし、高知県でも進む統廃合について、現状把握、原因特定、目標設定、手段の開発・選拓や集団意思の形成など、本県に応用可能な事例を研究。 ◆ 教育先進県への派遣 本年度も昨年度に引き続き、東京都教育委員会に事務局指導主事1名を派遣し、教育行政の在り方や学校現場の実情を把握するために、義務教育担当の教育行政を実務体験させている。 ◆ 臨床心理士の養成 本年度は3名の教員を鳴門教育大学大学院の臨床分野に新規に派遣。(臨床心理士養成コース1名・学校臨床実践コース2名) 来年度は、同大学院臨床心理士養成コースに3名派遣予定。	
③	実施内容(Input・Output)	◆ 政策研究大学院大学への派遣 政策研究大学院大学教育政策担当者コースで最先端の教育政策理論や先進自治体の施策及び取組を研究させる。(1名) ◆ 教育先進県への派遣 先進的取組を行っている東京都教育委員会へ本県事務局職員を派遣し、実践的な教育行政のノウハウを学ばせる。(1名) ◆ 臨床心理士の養成 鳴門教育大学大学院臨床分野に留学し心の教育について実践的に研究することで、臨床心理士を計画的に育成する。(3名)	
		【今後の方向】 ◆ 教育施策立案及びリーダー育成の充実を図るために、来年度も引き続き職員を政策研究大学院大学に派遣する。 ◆ 県全体へ効果的な教育施策の推進を図るために、来年度も引き続き職員の派遣を行う。 ◆ 臨床心理士資格者数の目標達成のため、来年度の派遣とともに、資格試験受験有資格者の受検について後追いを行う。 ◆ 研修修了者の人事配置については、研究成果の還元に留意する。 ◆ 特別支援コーディネーターの育成を目指し、愛媛大学への派遣を行う。	

総合評価と今後の方向	目標達成度 B 「No」を選択した項目 <input type="checkbox"/>	
	【総合評価】 ◆ 派遣終了者は、帰任後成果を還元できる配置場所への配置とし、一定の成果還元が図られている。 ◆ 資格取得について追跡調査が必要である。	